

(中国丙01)
インフルエンザ
発生推移
= 2023年9月度 =

発表: 2023年10月23日 天津CDC

作成: 2023年10月28日
日中医療衛生情報研究所

インフルエンザの分類について

- ここには一般の季節性インフルエンザと
(2013年11月分以後の)H1N1型が含まれている。
- 中国でしか感染者が出ていない
H5N6や、
H9N2の患者については、
界面サイトでのH5N6患者に関する記述から、
「その他感染症」に分類されていることが判明しました
⇒ <https://www.jiemian.com/article/5659382.html>
の最終パラグラフご参照ください。

インフルエンザの特徴

2008年からこれを振り返ってみると、

年間4万人(2009年)から350万人(2019年)までと振幅が大
コロナとインフルエンザの関係についての疑問:

2019年12月は1,199,771人

2020年01月は 986,543人

この2か月連続100万人という状況を、
衛生当局は検査体制の向上によると主張。

これに対し

2020年12月は 23,546人

2021年01月は 20,232人 となった

謎が一層深まる数字が飛び出した感じ:

'19年末の急増にコロナ患者が含まれていたのでは? ...

突然爆増する中国のインフル

2008年からこれまでの追跡の中では、
年間4万人(2009年)から350万人(2019年)までと振幅が
大きい**が、コロナが見つかる前年12月の爆増以外にも
単月で突如爆発するケースが増えている:例としては、
2019年12月に1,199,771人・2020年01月に986,543人、
2022年6月に747,038人、7月に648,465人となり、
(双極性を示すことが多い南方での発症者の影響?)
2023年3月には3,721,370人、4月も1,677,011人と100万人超
(4か月間累計で5,654,338人とこれまでのどの1年分累計を
も上回る)**

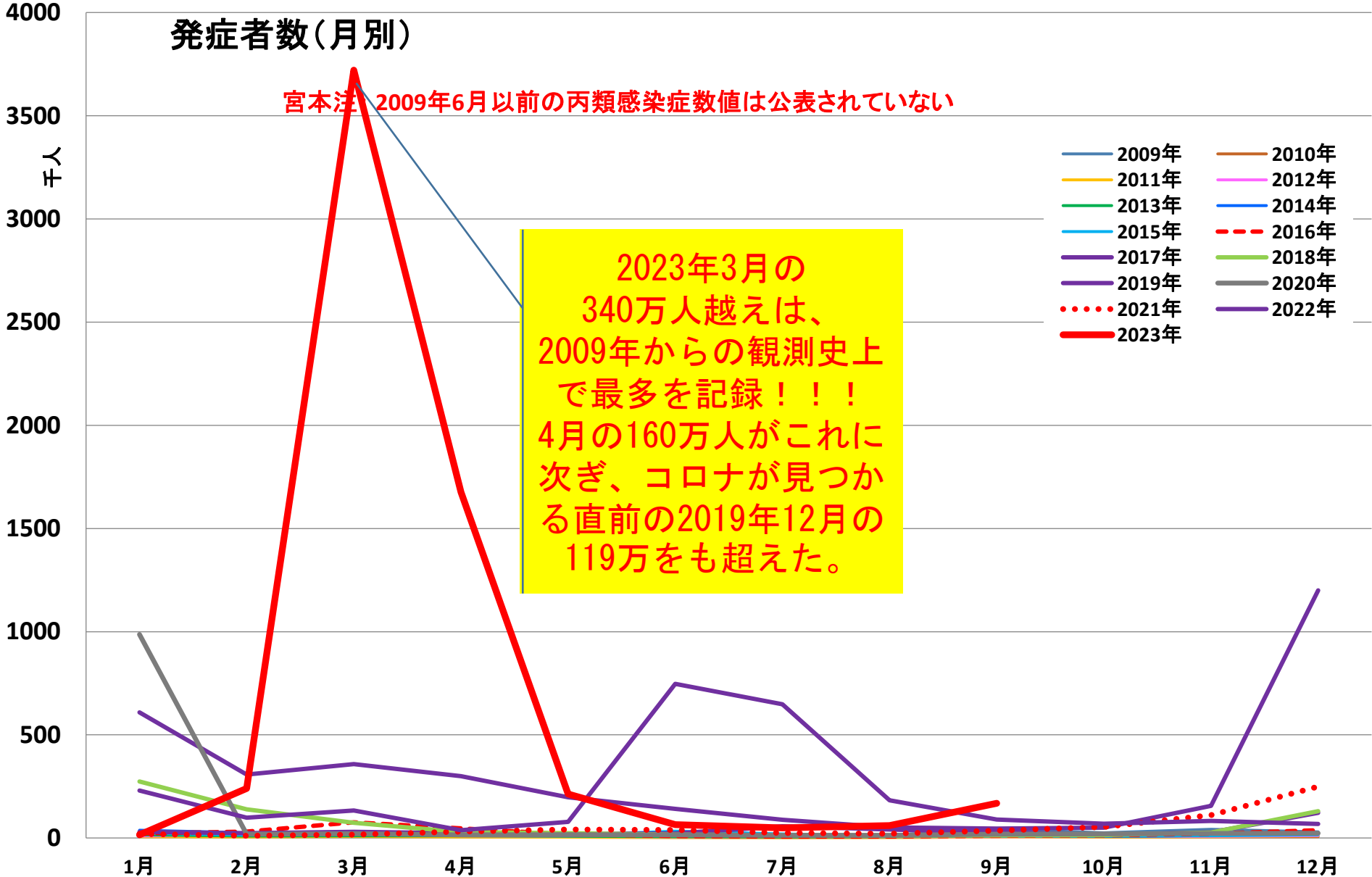
丙01：インフルエンザ発症者数

発症者数(月別)

宮本注 2009年6月以前の丙類感染症数値は公表されていない

2023年3月の
340万人越えは、
2009年からの観測史上
で最多を記録！！
4月の160万人がこれに
次ぎ、コロナが見つかる
直前の2019年12月の
119万をも超えた。

- 2009年
- 2010年
- 2011年
- 2012年
- 2013年
- 2014年
- 2015年
- 2016年
- 2017年
- 2018年
- 2019年
- 2020年
- 2021年
- 2022年
- 2023年



丙01：インフルエンザ

